

美作市新庁舎設計監理業務プロポーザル審査結果及び講評

令和4年3月14日
美作市新庁舎設計監理業務
プロポーザル審査委員会

1. はじめに

防災に対する危険度調査が進む中、現在の本庁舎は耐震性・浸水・土砂災害に対して脆弱で、防災拠点としての役割が果たせないリスクが判明しました。また、本庁機能の分散・老朽化・狭あい・財政計画等の課題を加味して総合的に検討した結果、本市は新築移転を選択しました。

新庁舎建設の成否を大きく左右する設計業務を発注するにあたり、豊かな創造性と高い技術力、豊富な経験を有する設計者を選定するため、公募型プロポーザルを実施することとし、美作市新庁舎設計監理業務プロポーザル実施要綱及び同審査要領に基づき、審査委員会において慎重かつ厳正な審査を行いました。

2. 審査経過

(1) プロポーザルの日程

実施内容	期日
プロポーザル実施の公示	令和4年1月5日(水)
一次質問と回答	令和4年1月17日(月)までに順次回答
参加表明書の提出期限	令和4年1月25日(火)
一次審査委員会	令和4年1月28日(金)
一次審査の結果通知と公表	令和4年1月31日(月)
二次質問と回答	令和4年2月9日(月)までに順次回答
技術提案書の提出期限	令和4年2月24日(木)
二次審査委員会	令和4年3月3日(木)
二次審査の結果通知と公表	令和4年3月14日(月)

(2) 一次審査

提出期限までに8者の参加表明がありました。2者は参加要件の一部を満たしていませんでした。要件を満たす6者の審査をしたところ、上位5者が拮抗しているのに対し6者目の採点が低かったことから、要綱で予定したとおり上位5者に対して技術提案書の提出を要請しました。

審査内容は全て基準に基づく客観評価であることから、事務局において採点し、令和4年1月28日に全委員の書面決議により決定しました。

(3) 二次審査

一次審査を通過した5者の内、3者から技術提案書の提出がありました。残る2者は「他物件の受注に伴い技術者の配置が困難」を理由に辞退届が提出されました。

提案書は審査委員以外の9名の部長級職員に意見照会した評価を質疑の参考にするとともに、審査委員7名は事前に配布した提案書について熟読した上で、厳正に審査を行いました。

令和4年3月3日のプレゼンテーション(20分)及び質疑応答(20分)は、新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、提案者はリモートによる参加としました。

審査は着目点を25項目に細分化した審査表により評価し、数値化した集計結果を確認した上で、各委員の講評を述べ協議の結果、集計結果が妥当であると判断し最優秀者及び次点者を決定しました。

なお、審査の公平性を保つため、全ての審査は事業者名を匿名にして行いました。

3. 審査結果

受付番号	一次評価 (100)	二次評価 (200)	合計 (300)	結果
1	88.50	162.52	251.02	最優秀者
2	89.30	143.88	233.18	
3	86.90	157.85	244.75	次点者

最優秀者 受付番号1
株式会社 久米設計 大阪支社
支社長 小牧 実豊

次点者 受付番号3
株式会社 石本建築事務所 大阪オフィス
オフィス代表 谷口 嘉彦

4. 講評

(1) 全体講評（主に共通した提案）

業務実施方針では、3者とも庁舎設計の実績を有する技術者を中心に、総合設計事務所の蓄積データを基にしたバックアップ体制が図られています。設計協議にあたっては、立体モデル技術で複数案を比較検討しながら、早期の合意形成を目指しています。

基本構造では、3者とも鉄筋コンクリート構造で材料価格が不安定な鉄骨を避けていますが、階数は2階建てが2者と3階建て1者に分かれ、屋根形状も陸屋根とこう配屋根が混在しています。

市民が利用できるオープンスペースや会議室をロビーやテラスに隣接させ、閉庁時の

セキュリティラインの考え方も基本的に共通していました。隣接する水路は、2者が緑道や親水デッキを提案し計画の一部に活かしています。

環境負荷の低減では、経験実績を活かした多くの選択肢の中から、災害時の業務継続にも配慮するとともに、新築時に採用すべき設備として高断熱、自然エネルギー、高効率機器、床空調等を採用し、工期とコスト面から無理のない提案でした。

工期対策では、安定的に調達できる材料と一般的な工法を用いて、合理的な柱間隔や階高を抑えるなどの提案が共通していました。

防災面では、耐震強度割増を1.5とし、情報機器等の部分のみ免振床とすることや、地震時に有利な天井レス、浸水に配慮した床高さ、業務継続のための各種対策の選択肢を示したうえで、平時と有事の各室の転換イメージ等の考え方は類似した提案でした。

一方で、内外装のデザイン、木材利用の手法、文化施設や防災公園と連携した外構計画、空調方式等については、提案者の工夫と独自性が表れており、特徴的な提案を後述します。

(2) 個別講評（独自の提案）

① 受付番号1 最優秀者

外観は、大きな庇を持つ2階建ての一部にこう配屋根を取入れたデザインで、高速道路の水平ラインと背後の山並みとの調和を意識した提案でした。こう配屋根は流通製材と金物を用いたトラス梁で、構造材に木材を用いた唯一の提案でした。

内部では、1階に集約した窓口の周囲に執務スペースを置き、2階には総務部門と議会関係を配置する案で、吹き抜けの窓口ロビーから2階も含めて全体が見通せることから、わかりやすい動線となりユニバーサルデザインの面でも高評価でした。

取組体制では、工程管理を優先するハード設計と十分な協議時間を確保したい執務レイアウト等のソフト設計を、2チーム体制により両立させた実施方針が高く評価されました。また、躯体のコンパクト化の他、設備配管のルート、鉄と木材の比較等、工期短縮に対する工法提案が具体的であったことも高評価でした。

ヒアリングにおいては、市が示す仕様の理解度や質疑に対する的確性においても、業務に対する取組姿勢の高さが感じられました。

採点では25の評価項目の内、20項目で最も高い評価（同点を含む）を得て、最優秀者と決定しました。

② 受付番号2

外観は、2階建てのこう配屋根に外壁の木格子、外部の木造回廊、山野草をモチーフにした提案が特徴でした。

内部の執務室は、市民・福祉部門が1階で他の部門は2階に集約し、一部3階に機械室を配置しています。議会部門は1階に配置し議場、市民ホール、外部テラス、中庭をつなげることで、イベントや災害時に多目的な活用を図る提案でした。

しかし、議場においては、多目的利用のために犠牲となる要素や、有事の避難所利用が議会運営を制限することへの懸念が残りました。

防災公園と一体的に連携した具体的な提案や、自社測定データを用いた外断熱の効果説明により、防災施設連携と省エネ対策の項目では一定の評価がありました。

相対的に、執務室の分散や長い動線に疑問が残り、他者と共通した提案にとどまったことから、高い支持を得ることが出来ませんでした。

③ 受付番号3 次点者

外観は陸屋根の3階建てとし「まちの玄関」をテーマにした大きな門型の外観で、広い軒下空間も特徴的でした。

内部は1、2階に市長部局、3階に教育委員会と議会関係を配置し、執務空間は18m×36mの長スパンを確保することで、わかりやすい動線となり、機構変更やデスク配置の柔軟性では最も評価が高くなりました。

有事の機能転換では、防災公園が見渡せる2階の対策本部や、執務室から屋内外での市民サポート、活動拠点となる防災公園までを連携して活用する提案の他、選挙・コロナ対策時に開設が容易な臨時窓口は、実務をよく理解した提案で高評価でした。また、合併6町村と市花のカタクリをモチーフした議場の内装や、中国道や夜景の視点等、愛着が持てる仕掛けづくりのテーマにおいても高評価でした。

しかし、工期の短縮につながる工法を採用し1.5月短縮の可能性を提案してあるものの、工期遵守のテーマ対して、床面積の合理化や別棟倉庫の提案が含まれることには違和感があり、工期対策や省エネ対策の項目で最優秀者に及ばず、惜しくも次点となりました。

5. おわりに

本プロポーザルに参加され、多大な時間と労力を費やし、真摯な考察のもとに意欲的かつ多様な提案をくださった提案者に対して、心より感謝申し上げます。

今回の審査を通じて委員からは、今後の設計に向けた意見として、市民の事情に合わせた相談室の充実、整頓された空間が維持できる書庫の充実、執務空間に囲まれた窓口で来庁者が委縮しない工夫、女性委員がいなかったことから設計段階では女性の視点を十分取り入れること等の意見がありました。

プロポーザルは人を選定するものであり、提案された内容を具体化するためには、今後の設計プロセスにおいて、市民をはじめ多くの関係者と協議を重ねる必要があります。設計者と関係者の英知を結集した設計となり、竣工の暁には、地域に根ざし市民に親しまれる庁舎となるよう期待するものです。